

宮城県感染症発生動向調査情報

平成29年7月20日発行

— 2017.7.10～2017.7.16—第28週—

1. 集計

上段は患者発生数、下段は定点当り

疾病	保健所							患者数	宮城県(含む仙台市)					
	仙南	塩釜	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼		患者数	累計	第25週	第26週	第27週	第28週
水痘			4	4		6	1	12	27	701	○	○	○	○
流行性耳下腺炎		19	1	1	1			4	26	352				○
百日咳									2	8				
感染性胃腸炎	48	41	16	20	14	7		168	314	8,787	◎	◎	◎	◎
手足口病	8	7	80		3	8		112	218	565	○	○	◎	◎
伝染性紅斑					1			2	3	105				
突発性発しん	2	4	1	1	3	7		29	47	953	○	○	◎	○
ヘルパンギーナ	2	3	11	1	5			20	42	124				○
インフルエンザ									0	27,047	レ			
咽頭結膜熱	4	9	1	3		3		73	93	1,137	◎	◎	◎	◎
流行性角結膜炎		1							1	72				
急性出血性結膜炎									0	0				
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	9	55	6	5	2	32	1	45	155	4,906	◎	◎	◎	◎
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)									0	0				
無菌性髄膜炎									0	1				
マイコプラズマ肺炎				1			2	3	6	139				
クラミジア肺炎(オウム病は除く)									0	0				
RSウイルス感染症	9	3	1			1		49	63	483	○	○	◎	◎
感染性胃腸炎(ロタウイルス)									0	50				
拡張疾病	マイコプラズマ肺炎(小児科)	4	2	1	1		2	1	6					
	川崎病	1												
	不明発疹症								7					

※今週のインフルエンザによる入院患者報告(仙台市を含む基幹定点報告) 0例

2. 全数報告疾病

1類感染症: 報告なし

2類感染症: 結核
 石巻管内 女性1名(第27週)
 仙台管内 男性2名、女性2名、男児2名*

3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症(O91)
 大崎管内 男性1名(第26週)、女児1名(第27週)*
 腸管出血性大腸菌感染症(O103)
 登米管内 男性1名、女性1名
 腸管出血性大腸菌感染症(O26)
 登米管内 女児1名*

4類感染症: E型肝炎
 仙台管内 女性1名(第23週)

5類感染症: アメーバ赤痢
 仙台管内 男性1名
 ウイルス性肝炎(B型)
 仙台管内 女性1名
 侵襲性肺炎球菌感染症
 仙台管内 男性1名、女性1名
 破傷風
 仙台管内 女性1名
 ※男児、女児は6歳未満

3. 宮城県感染症対策委員会情報解析部会

[手足口病]

大崎管内で警報継続中

[A群溶血性レンサ球菌咽頭炎]

塩釜、石巻管内で警報継続中

【病原体検出情報】

～宮城県保健環境センター～

腸管出血性大腸菌感染症患者より

大崎管内のO26関連 第25週、27週採取分 O91 2件
 登米管内のO103関連 第28週採取分 O103 1件

～仙台医療センターウイルスセンター～

	確定 中間 報告		
	第25週採取分 (6.19～6.25)	第26週採取分 (6.26～7.2)	第27週採取分 (7.3～7.9)
RSウイルス	1件	1件	1件
ヒメタニューモウイルス	1件	0件	0件
アデノウイルス	2件	6件	0件
サイトメガロウイルス	0件	1件	0件
パラインフルエンザウイルス(1型)	0件	0件	1件
パラインフルエンザウイルス(3型)	9件	6件	5件

* パラインフルエンザウイルス(3型)の分離が多い状態が続いています。

4. 今週のコメント

【手足口病】

幼い子どもを中心に手や足、口の中に発疹ができるウイルス性の感染症で、ウイルスの付着した手や感染者の咳やくしゃみで感染します。まれに脳炎などの重い症状を引き起こすことがあります。全国的に患者数が増加しており、10年間の同時期で患者数が最大となった平成23年に次ぐ大きな流行になっています。県内では、大崎、仙台管内を中心に流行が続いています。小さな子どものいる家庭では手洗いなどの対策を徹底するよう心がけてください。

【ウイルス性肝炎(B型)】

5類感染症に指定されるウイルス性肝炎の過去10年の患者報告数は2,400例で、そのうちB型が80%、C型が15%となっています。B型肝炎は、一般に全身倦怠感、感冒様症状、悪寒などの症状から褐色尿や黄疸を伴います。感染年齢により予後が異なり、乳幼児では無症状のままキャリア化することが多いですが、成人ではほとんどが一過性で治癒します。自覚症状がないことが多いため、適切な時期に治療ができるように、ウイルス検査や予防・治療に関する知識をもつことが必要です。

宮城県定点週報告対象疾病の推移

